

「アグリ・スタディ・プログラム」について

「アグリ・スタディ・プログラム」は、農業を身近に感じることのできる新潟市の特性を一層生かした教育を進める農業体験学習プログラムです。

農業体験学習は、子どもたちに、様々な人々の苦労や努力に気付かせると共に、農作物や家畜のあふれるような生命力を感じさせます。これらは、子どもたちに知恵と感動を与え、子どもたちの成長を大きく後押しします。

このプログラムにより、次の三つの子ども像を目指しながら、次代を担う新潟市の子どもたちに必要な「生きる力」を育てていきます。



○持続可能な社会の実現に向け、よりよく問題を解決していく子ども



○豊かな食の恵みに感謝し、いのちや人との絆を大切にする子ども



○農業のすばらしさに気付き、ふるさと新潟を愛し、誇りに思う子ども



小学校編プログラムは下記のとおりです。

学年	教科(プログラム数) 総数(43)	
1年生	生活(1)	生活(1)
2年生	生活(3)	図画工作(1)
3年生	社会(5)	
4年生	社会(3) 理科(2) 総合(3)	特別活動(3) ※仲間作りも意図した宿泊プログラムもあります。
5年生	社会(5) 理科(1) 総合(3)	
6年生	理科(1) 家庭(1) 道徳(2) 総合(3)	
全学年共通	図画工作(1) 総合(3)	

他に、中学校・中等教育学校編、特別支援学校編、幼稚園・保育園編、適応指導教室編、PTA編のプログラムがあります。

実感を持った「確かな学び」

～実際にプログラムに取り組んだ事例から～

牛乳にかかわる様々な「命」の秘密を知り、搾乳で乳牛の温もりやお乳の出る不思議さを実感した子ども



たちは、その時の喜びや驚き、感謝の気持ちを話しながら描いていました。

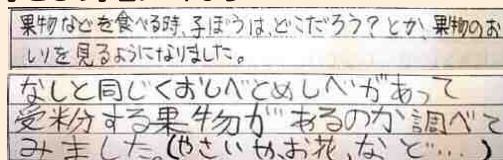
乳牛を見るだけでなく、お話やふれあいによって、心と体でしっかりと感じる事ができたプログラムだからこそ、子どもたちは自分の思いを素直に表現できたと思います。

※プログラム「見つめて感じて～動物となかよし～」(図画工作)で指導した教諭より)



梨の底部のへこみに、おしべやめしべ、がくの名残りのようなものを見つけた子どもたちは、へちまの学習の際に学んだ受粉のことと関連付けて観察していました。さらに、収穫した梨を食べる前に、梨を縦割り、横割りに切って、子房や種の様子も熱心に観察していました。

<子どもの学習ノートより>



理科の学習で学んだことをもとに、日常生活の中の事象・事象について、興味・関心をもって見たり調べたりする子どもが多くなりました。

※プログラム「そうだったの!めしべの秘密!」(理科)で指導した教諭より

新潟発 わくわく教育ファーム推進事業

新潟市教育委員会と農林水産部では、子どもたちが充実した様々な農業体験学習をできるように、プログラムの作成や改訂のほか、移動にかかる交通費や宿泊費の一部、学校教育田の借り上げ費などの助成も行っています。

実感を持った

「確かな学び」を子どもたちに

～「アグリ・スタディ・プログラム」の推進～



平成27年4月

新潟市
新潟市教育委員会

新潟市の各学校では、様々な教科等の学習活動に農業体験を位置付けた「アグリ・スタディ・プログラム」を地域の実態や学習のねらいに応じて実施し、実感を伴った「確かな学び」ができるようにしています

学校田や学校教材園で

「ふるさとにいがた」お米No.1!
(小学校 社会5年)



◇各学校でも、独自のプログラムを作成し農業体験学習を行っています。



近隣の農家で

「そうだったの!冬咲きチューリップの秘密」
(小学校 社会3年)



いくとぴあ食花でPR

宿泊もできる農業体験学習施設「アグリパーク」で

「アグリパーク・ツアーズ(宿泊編)」
(小学校 特別活動4~6年)



体験を通じた仲間作り

「そうだったの!牛乳に秘められた命の恵み!」
(小学校 特別活動 全学年)



地域の農家の方々にも協力をお願いしてみましよう。

「アグリパーク」では農業体験や宿泊体験をとおして、仲間作りができるね。

「そうだったの!めしべの秘密!」
(小学校 理科5年生)



「果樹園はどんな場所?」
(小学校 社会4年)



果樹農家でも学習

いくとぴあ食花で

「めざせ!花いくミニマスター!」
(小学校 生活1・2年)



ミニマスター検定

